

1 学校として目指す授業

ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、一人一人が自ら学び方を選び、学びを振り返りながら主体的に学ぶ授業
--

2 生徒の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校 3 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
国語・数学・英語はいずれも東京都及び全国の平均正答率を上回り、知識・技能、思考力・判断力・表現力ともに成果が見られた。一方、数学では「思考力・判断力・表現力」の正答率が56.8%と「知識・技能」の74.1%を下回り、身に付けた知識・技能を活用して考え、判断・表現する力をさらに伸ばす必要がある。	聞いたり読んだりした内容について、英語で問答・意見交換する活動への肯定的回答は93.5%（都87.7%、全国85.1%）、自分の考え等を書く活動は88.6%（都85.7%、全国82.8%）であった。対話や表現を取り入れた学習活動が定着しており、今後はその成果を一人一人の学びに生かすことが重要である。

（２）都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析

教科横断の「学習の進め方」では、「理解しながら進める」3.1、「ねばり強く進める」3.0に対し、「工夫しながら進める」「対話しながら進める」はともに2.9であった。また、「他者と考えを交流しながら課題を解決する」は3.2である一方、「自分が理解したことや考えたことを説明する」は3.0、「学習した内容の振り返り方を教えてもらっている」は2.9であった。つまり、対話的・協働的な学びは行われている一方で、それを自らの学びとして十分に生かすことに課題があることがうかがわれる。他者との交流を通して考えを広げ・深め、その成果を自らの学びに生かし、学び方を工夫・調整していく力をさらに育成する必要がある。
--

（３）その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
校内で6月に実施した「デジタルを活用したこれからの学び」アンケートの肯定的な解答の割合は、協働に関する項目は87～89%と高い一方、「自分で学習の計画や進め方を考える」は77.8%、「振り返りを次の学習に生かす」は68.1%であった。協働の成果を生かし、自ら学びを計画・調整する力を育成する必要がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

全国学力・学習状況調査等から、本校の生徒は基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、他者と交流・協働しながら学ぶことにも一定の成果が見られる。一方、身に付けた知識・技能を活用して考え、判断・表現することや、他者との交流によって得た考えや学び方を自分の学びに生かすことには、さらに伸ばす余地がある。また、自ら学習を計画・工夫することや、振り返りを次の学習に生かすことについても同様の傾向が見られる。今後は、これまで培ってきた学力や協働的に学ぶ力を基盤として、自ら学び方を選択し、他者との学びを通して考えを広げ・深め、学習状況を振り返りながら次の学びを調整していく力を育成する必要がある。
--

4 学校全体の授業改善の視点

①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実：生徒が自ら学び方を選択し、他者との交流を通して考えを広げ・深め、その成果を自らの学びに生かすとともに、振り返りを次の学習につなげる授業づくりを進める。
②デジタルを活用したこれからの学び：ICTを一人一人の学びや他者との交流、振り返りを支える手段として効果的に活用し、学習内容や生徒の実態に応じて多様な学習形態を適切に組み合わせる。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>学校指導課へ提出する。</u>
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	他者との交流や協働を積極的に取り入れる。また、各単元末の課題についても他者の作品等を共有し、理解を深められるようにする。		単元末の課題をあらかじめ示し、見通しをもって学習を進められるようにする。デジタルを活用して他者の考えを参照し、交流や振り返りを自らの学びに生かせるようにする。		課題の解決方法を生徒同士で伝達し合いながら、理解に努められるようにする。習熟度別指導によって課題のレベルの調整から意欲的に取り組む意識をもたせる。		デジタルコンテンツを活用し、単元の見通しをもった自己調整学習を取り入れながら、理解を深めていく。		1学期で授業規律が身に付いてきたので、音楽を知覚して感受したこととの結びつきを明確にしたり、基本的な歌唱・器楽の技能を伸ばしていけるようにする。		授業で使用したワークシートやスライドをいつでも見られるようにする。 動画で技法等を提示する。 作品をスライドで紹介する。		互いに見合う等他者との交流を行い、ICTも活用しながら学びを深めていく。		ICTを活用し、学び直しや自分の進度に合わせた学習ができるようなコンテンツを作成・共有していく。 ICTを活用し、生活に関わる課題の発見・解決に主体的に取り組む力を育てる。		ICTを活用し、個々の学びに応じた環境と協働的な学習ができる機会を作る。またインプットとアウトプットを両立させるために、単元目標や小テストを各月で提示し、生徒たちの学習成果を図っていく。		ICTの活用や対話を通して、多様な考えを共有し、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。	
2 学年	複数の答えが考えられる問題解決的な課題を増やす。その解決過程で様々なツールや他者参照を取り入れ、多面的に思考を深められるようにする。		単元の見通しをもつことで自己調整を目指す。学習者に学習形態の選択を委ね、主体的に学ぶ力を身に付けられるようにする。		授業のExcel振り返りシートを生徒に入力させる。自分の学習を振り返ること、自分に不足している知識・技能を認識し、学習方法を工夫することができるようにする。		教科書のデジタルコンテンツなど、ICTを効果的に活用する。他者との対話や協働学習、探究的な学習を取り入れる。		歌唱活動が主になっていたため、器楽・鑑賞活動も扱い、音楽を多面的に捉えるようにする。		ICTを活用して制作計画や記録を作成し、振り返りや自己調整を行う。 授業で使用したワークシートやスライドを常時見られるようにする。 動画で技法等を確認しながら制作を進められるようにする。		実技授業では、見本や仲間の動きを他者参照し、自身の課題を見つけて改善する。座学授業では、ICTを活用することで考え方の選択肢を増やせるようにする。		生徒が自ら学び方を選択し、他者と交流しながら、学びを深める授業スタイルを定着させる。 学習に見通しを持たせ、自己調整していく力を身に付けさせる。		ICTを効果的に活用し、言語活動を通して生徒が実際に英語を用いる機会を充実させる。英語の歌や補助映像等を活用して、生徒の興味や関心を広げ深め、きっかけを授業に取り入れる。		ICTの活用や対話を通して、多様な考えを共有し、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。	
3 学年	単元ごとにPC上での学習シートを作成する。基本・メイン学習で共同的な学びを深め、発展的な学習の中で自ら課題を持ち、個別最適化に即した授業構成を取り入れる。		単元の見通しをもたせ、生徒が課題に応じて学び方を選択できる場面を設定する。ICTを活用して他者の考えを共有・比較し、自分の考えを深めるとともに、毎時間の振り返りを次時の学習につなげる。		知識・技能の習得を通して、自分の考えを正しい数学用語を用いて記述する場面や、他者参照できる機会を設ける。		デジタルコンテンツを使ったデータの活用を授業に取り入れる。目標に沿った自己調整学習を取り入れ、理解を深める。		学習したことを元に、自分の考えを深められるような授業展開を目指す。基本的な知識や考え方を共有したうえで、自分の考えを深めていけるような仕掛けを作っていく。		ICTを活用して制作計画や記録を作成し、振り返りや自己調整を行う。 授業で使用したワークシートやスライドを常時見られるようにする。 自分に合った技法動画等を探して活用できるようにする。		話し合い活動を取り入れていく中で、他者の動きや演技を参考にし、自分の動きに取り入れるようにする。その中でデジタルを活用するようにする。		習得した知識・技能を活用し、自分の考えを表現する活動を充実させることで、学んだことを生かす力を育てる。		ICTを活用して他者の表現や考えを参照し、自分の表現に生かす活動を取り入れる。振り返りを次の学習につなげ、生徒が自ら学習方法を工夫・調整できるようにする。		ICTの活用や対話を通して、多様な考えを共有し、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。	